



ロータリーは機会の扉を開く

2020~2021 RI.2760地区

瀬戸ロータリークラブ会報

2020年11月4日発行 第2769号

本日のプログラム

2020年11月4日(水)

通算第2943回例会

本年度第13回

場所：瀬戸商工会議所

例会次第

- ・開会点鐘
 - ・「君が代」「奉仕の理想」
 - ・出席状況
 - ・会長挨拶
 - ・行事
 - ・誕生日・結婚記念日祝福
 - ・幹事報告
 - ・委員会報告/その他の報告
 - ・卓話
- 地区ポリオプラス/職業研修チーム
副委員長 青山 貴彦君
「ロータリー財団プログラムについて」
～財団はロータリー会員の財産です

前回例会 記録

2020年10月28日 第2945回例会

WEB例会

- ・出席報告 会員数 55人
出席率 100%
- ・卓話
澤田武憲君
「新会員の卓話」

例会予定

《《《11月11日(水)》》》

- パスト会長 加藤 眞言君
「あったかい話」
パスト会長 加藤唐三郎君
「題無(だいなし)」

《《《11月18日(水)》》》

- 加藤克弘君
「企業の在り方と
地域への教育支援活動」

《《《11月25日(水)》》》

休会



第2945回例会挨拶 会長 松村晋也君

皆さん、こんにちは。本日は瀬戸ロータリー2945回の例会であります。本日はオンラインでの例会であります。勿論、最終的にこの形と決まったわけではなく改善点があれば改善しながらやっています。

さて前回、東京ロータリーの産声の話をさせていただきました。私は10月といいますが、もう一つ記憶に残っているのが1964年、昭和39年に行われました東京オリンピックのことであります。国際オリンピックとしては18回目なのですが、今年東京で2回目のオリンピックが予定されておりました。けれどもコロナにより来年開催されることになりました。日本では1964年の時を第1回目、今年は2回目という呼び方をする場合もあります。昭和39年ということで、私は高校3年生で我が家にも白黒テレビが入りまして、そのテレビで東京オリンピックを観戦しました。最終聖火ランナーの坂井義則君が右手にトーチを持ち、聖火台までの階段を登り、最後聖火台に火をつけてこちらを向いて聖火をあげた姿が白黒で映されたのですが、後に市川崑監督が東京オリンピックというカラー映画を作りました。その時、坂井義則君が真っ白なトレーニングウェアに身を包み白のスポーツシューズを履いて、右手にトーチを掲げて一挙に聖火台までの階段を登り、聖火を点け、こちらにくると向きまして。ちょうどその時、坂井義則君の真っ白な出で立ちと横に真っ赤な炎が上がっており、バックが10月10日の雲一つ無い青空とういうことで、何という鮮明な画像であったのかという風に私は未だに印象深く残っているわけでありませう。

ロータリーに入りまして、先週もお話させていただいたように東京ロータリーはまさに東京財界人のトップの集まりですので、

東京ロータリーと東京オリンピックが関係ないわけが無いと少し資料を調べてみますと大いに関係がありました。当時の組織委員会の委員長、今でいう森喜朗さんにあたる人が東京ロータリーの安川第五郎という方でした。安川第五郎という方は安川財閥の五男で、安川電機の社長をしたり、日本原子力発電の初代の社長をした方です。そして当時の一番話題になったのは聖火台です。この聖火台をロータリーが寄付したのです。1964年の遡ること3年前1961年に東京で世界大会が行われました。その時の寄付金が300万円ありました。それに加えて近隣のロータリーから寄付を集めて聖火台を寄付しました。その台座のところにはロータリーの徽章が大理石で埋め込まれたと言われておりました。その他に東京都内に友愛の家を設けて外国から来たロータリー関係の方を接待し、そして東京ロータリーが10月20日創立記念日ですので、当時44周年の創立記念のパーティーを帝国ホテルで大々的に行ったそうです。そのパーティーに当時のIOCのブランデー会長以下幹部を招待したと言われております。東京オリンピックイコールロータリーそのものであったわけでありませう。

本当は今年の7月23日に2回目のオリンピックが開催される予定でしたが、このコロナで1年延期になりました。おそらくロータリー関係の方々が色々関係し、また活躍されるのではないかと考えておりますので、是非、また来年も期待したいと思っております。今日は東京オリンピックとロータリーの関わりについてお話しさせていただきました。これで会長挨拶とさせていただきます。



澤田武憲君 「新会員の卓話」



今回卓話を担当させていただきます。歴史と伝統のある瀬戸ロータリーのメンバーに入れていただき、大変光栄ではありますが、何を伝えたらいいのか迷いますが、ロータリアンとして、立派なお話は難しいと思いますが、準備してきたものを、精一杯お話させていただきます。

初めに、私は沢田建設の3代目の代表取締役として、ここにいるわけですが、創業者の澤田武、2代目の私の父澤田賢成が皆様に大変お世話になりました。特に、澤田賢成はロータリーを通じて、また、仕事やプライベートなどでもお世話になり、また、ご迷惑をお掛けしたこともあると思いますが、皆様に私からも感謝申し上げます。

澤田賢成は、大変熱いというか、間合いが近い感じがして、時にはその近さが気に障るといふか、不快に感じることもあるかもしれません。私の子供のころの思い出としては、小学生のころ、夜寝ていると、父親が帰って来るわけですが、酔っぱらっているのか、寝ている私を起こすわけです。それが、本当に嫌で嫌でしようがなかったです。そんなコミュニケーションの取り方しかできない、父親ではありますが、まだまだ健康の心配もなく、元気ですので、私共々お引き回しをお願いします。

私の生い立ちについては、私は昭和43年6月生まれで52歳になります。瀬戸市で生まれ、長根小学校、水無瀬中学校、部活は野球部をやっていました。その後、旭野高校へと進みました。旭野高校では、ラグビー部に入り、東海大会に出場するなど、楽しい毎日でした。テレビドラマのスクールウォーズという番組も流行っていましたので、一生懸命ラグビーをして、耳の形もつぶれてしまうほど、頑張っていました。

このように、子供のころからスポーツ、体を動かすことは好きでした。今でも、健康のためにスポーツジムに月に2、3回行って、泳いだり、ジョギングをしたり、しています。ジョギングでは、名古屋シティマラソンのハーフマラソンを、2012年から毎年出場しておりましたが、今年は、コロナの影響で、中止になり、とても残念でした。

ゴルフも働き出してから始めましたので、歴だけは30年近くになると思います。最近、ハンディキャップをとることができ、23をもらいましたが、まだまだ、参加することに意義があるという精神ではありますが、呼ばれば、喜んで参加しておりますので、お誘いをお待ちしております。

このように、運動は好きですが、マラソンもそれほど早くはなく、ゴル

フの腕も情けない限りですが、健康維持のため、体を動かすように心がけております。

大学は東海大学の工学部に進学しました。当時、少し変わったコースがありまして、1、2年の教養課程の2年間は、九州の福岡校舎で専門課程の3年4年の2年間は、神奈川県平塚市の校舎で学ぶというコースがありました。そもそも、西日本出身の学生が4年間神奈川県で下宿生活をするのは経済的な負担も大きいので、少しでも軽減できるようにという発想で、福岡校舎のコースができたと聞いていますが、実際には偏差値の関係で、福岡校舎に行く人が多いようでした。私は2年間福岡県の宗像市という、田舎で下宿生活をしたのですが、新しい生活で、本当に毎日が楽しい日々でした。

就職は当時、準大手ゼネコンの日産建設に就職しました。日産自動車の日産と同じ漢字の日産建設ですが、もともとの会社の起源は日産自動車と同じ日本産業の会社と聞いています。私が就職活動していた時期は1991年平成3年のバブル崩壊の時期ではありませんでしたが、ギリギリバブルの売り手市場でありましたので、何とか、一部上場の企業に就職することができました。

配属先は大阪支店になり、担当した現場は、明石から淡路島への、明石大橋から繋がる、淡路島の縦貫道路の工事現場でした。ちょうど淡路島の中央部辺りの室津(むろつ)という地域で、高速道路の高架橋の土台部分となる、橋脚や橋台を造る工事現場でした。工事での思い出も沢山ありますが、最も忘れられないのは、1995年の阪神淡路大地震で被災したことです。私たちの現場宿舎は、震源地の野島断層から3kmぐらいのところでした。早朝に信じられないような大きな揺れで、身の危険も感じましたが、揺れが治まってしまうと、直後は被害情報も入ってこないで、現地にいる私達には、未曾有の被害が出ていることは、分かりませんでした。夜が明けても、停電で情報も乏しい中、普通に現場の朝礼をしたことを、覚えていきます。

その後、日産建設を退社し、1996年に沢田建設に入社しました。入社後は、仕事やPTA、JCや瀬戸旭法人会青年部の活動など、様々な会に関わることができ、特に、法人会青年部では、会長を、(株)坂田酒販の坂田さんが担われ、その補佐役として、いろいろな活動に参加しました。多くのチャンスの場面で、声をかけていただくと、断ることができない性格もあり、ネットワーク、友人知人の輪を広くすることが出来ました。

